

## 人生を変えた一言

Sさんは順調な日々を送っていました。地方の支社の大勢の同僚の中からたった一人抜擢されて本社勤務になりました。ところが責任と同時に仕事の量も10倍に増え、いくら頑張っても先が見えない毎日になりました。あせりが募り疲労が溜まり、眠れなくなっていました。遂にうつ病と診断され、3年後に休職となり、妻も去って行きました。マンションの屋上から飛び降りましたが、脚の骨折だけで奇跡的に助かりました。母親が何も言わずに、付き添ってくれました。

歩けるようになって、あても無く外出した時のことです。電車の中で何気なく席を譲った老女から繰り返し「有難うございます」とお礼を言われました。すると突然、深い感動が甦ってきたのです。「人生に絶望した男なのに、今こんなに喜んでもらっている。自分にも他人のために出来ることがあるのだ」

「こんな自分でも人の役に立てること、そうだ惨めな経験でお役にたとう」  
彼は講習を受けて、カウンセラーの道を歩み始めました。Sさんとの出会いによって、うつ病のつらさを慰められ、生きる新たな望を得た人が大勢生まれました。絶望していたSさんに、この様な命が残っていたのです。死なないで本当によかったですね。「与えつつ、与えられつつ、いろいろな人と一緒に生きていける。生きていて良かったな」としみじみ感謝しているそうです。

## 何とも痛ましい出来事

先日ふじみ野市で、32才の母親が3才の我が子を投げ飛ばしたら、首の骨が折れて死んでしまいました。トイレに行きたいと言わずにお漏らししてしまったので、カッとなってしまったのだそうです。4人の子持ちの由、毎日の育児がさぞ大変だったことでしょう。近所に住む60才代の夫婦が「きちんと挨拶する方。何かあったら相談してねと言っていたのに」と気の毒がっていました。

5月にこの子の3歳児健診を受けなかったのも、再度案内を出し、返答がないので保健師が訪問したが留守。「様子を教えて欲しい」と書置きしましたが応答なし。この母親は少しルーズなのか、それともそれほど育児に忙殺されていたのか。小さな4人の子育ては、毎日が戦争のようだったことでしょう。母親が逮捕され、残された3人の子供たちはこれからどうなるのでしょうか。

親にとっても子供たちにとっても最悪な事態になりました。何とか回避出来なかったのか。「いらいらして切れてしまった」——この母親だけではありません。子供でも若者でも、年配者でも切れやすくなったと言われていています。本当に恐ろしいですね。心にゆとりを持つことです。そのゆとりは優しさから生まれます。優しい心は、優しく大事に育てられることによって育ちます。この母親は自分の母から本当の優しさをもらわなかったのではないのでしょうか。

### そのままでもいいんだよ

イエス・キリストは汚い家畜小屋で生まれ、飼い葉桶に寝かされました。惨めな境遇に置かれた小さく無力な命です。でも クリスマスの賛美歌「きよしこの夜」はこう歌います。「救いの御子はまぶねの中に眠りたもういと安く」「御子の笑みに恵みの御代のあしたの光輝けりほがらかに」

神さまがこの世に送ってくださった救い主は、どんなに貧しく汚くむさくるしい所にでも、静かに優しく臨んで下さり、嘆き悲しむ心に平安と喜びを与え、明日の希望を輝かせてくださる救い主なのです。どのように惨めな境遇の人の傍らにも、そっと寄り添って、一緒に生きてくださる救い主なのです。

うつになり無気力になっても、育児に追われていらいらがつのつても、「そのままでもいいんだよ。大丈夫。貴方にはまだ豊かに生きていける命が残っていますよ」という優しい声を聞ける人は幸いですね。Sさんは病床の傍らにいてくれたお母さんや電車の中のおばあさんを通してその声を聞いたのでしょうか。あの4人の子の母親には、聞こえなかったのでしょうか。

クリスマスです。教会の礼拝に集い、貧しい家畜小屋に生まれた救い主の呼びかける声をお聞き下さいませんか。

**“わたしの目に あなたは価高く貴い” 聖書**